



コンクリートガラ・がれき類をメインに扱う中島第1工場

再利用で環境負荷軽減

がれき類解体から運搬まで

リサイクル松栄(松尾美香社長、大阪市西淀川区)は、リサイクルを通じた環境負荷軽減を中心に事業展

リサイクル松栄

開している。コンクリート、がれき類といった廃棄物の解体から運搬まで一貫したサービスを提供。自然環境との共生をモットーに、資源の効率的な利活用を目指す。1993年に設立し、産業廃棄物処理業、産業廃棄物収集運搬業のほか、土木・舗装・解体工事業を展開。中間処理、破碎をメインとする中島第1工場(大阪市西淀川区)、中島第2工場(同)のほか、船による再生砕石の搬出を行う厄

崎工場(兵庫県尼崎市)を拠点とする。第1工場では工事現場や解体現場から集めたコンクリートガラ・がれき類をメインに扱う。大きなサイズのがれきを専用のホッパ

類は再生原料、石膏ボードはセメント原料などに生まれ変わる。ゴミの排出量に対するリサイクル量の割合を示す「リサイクル率」は、がれき類、木くずで100%となっており、そのほかの品目でも高いリサイクル率を実現。環境に配慮した事業展開を行っている。

ー、クラッシュヤーといった設備で破碎し、粒の細かい再生砕石として処理。1日当たり900トンの処理能力があり、再生砕石は道路の基盤となる「路盤材」として再利用される。ダンプトラックを40台保有しており、処理後の輸送も自社で行っている。

松尾社長は「設立以来、『環境にやさしい企業』を理念に社業を続けてきた。最近ではSDGs(持続可能な開発目標)をはじめ、企業でも自然環境への関心が高まっている。リサイクル、廃棄物の収集運搬といった事業を通じ、より良い環境づくりに寄与できれば」と話している。

第2工場は混合廃棄物や木くず、廃プラスチック、石膏ボードを処理。第1工場と同様に専用施設を設置しており、木くずは燃料用木質チップ、プラスチック

(黒須晃)